

区分・種別	重要文化的景観
名称	おくうち たなだおよ のうさんそんけいかん 奥内の棚田及び農山村景観
所在地	北宇和郡松野町大字蕨生の一部、奥内川の一部
所有者	個人ほか
選定年月日	平成29年2月9日
解説	<p>しまんとがわ 四万十川の支流広見川上流部の奥内川沿いの山間部に位置する、江戸時代中期以降に形成された棚田を含む4つの集落（遊<small>ゆ</small>鶴羽・下組・本谷・榎谷）から成る農山村景観である。古文書等の調査から、地形条件に沿って、谷部を水田、尾根部を屋敷地、屋敷地周辺を畑として継続して利用されてきたことが確認され、その結果、ヒメアカネ及びアキアカネ等の赤トンボ類を含む貴重な生態系が現在も維持されている。また、山間部ではアラカシ、コジイ、コナラ等の天然生林が広範囲で形成されており、地域本来の希少な山林景観を望むことができる。平成11年農林水産省の「日本の棚田百選」に認定されている。奥内の棚田及び農山村景観は、四国南西部の四万十川源流域の山間部を開墾した小規模な棚田群から成る文化的景観であり、四国山間部の厳しい地形条件の中で江戸時代以来現在まで継続されてきた生活又は生業を知る上でも貴重である。</p>

